

令和4年度 第2回全国健康保険協会和歌山支部評議会議事録

開催日時：令和4年10月19日（水）10：00～12：00

開催場所：和歌山城ホール（4階） 会議室1

出席者：金川評議長、足立評議員、太田評議員、貴冨評議員、小牧評議員、嶋本評議員、
中村評議員、畠山評議員（評議員五十音順）

令和4年10月19日に令和4年度第2回全国健康保険協会和歌山支部評議会を開催し、評議員9名中8名が出席。評議会の概要は下記のとおりです。

<議題>

1. 2023年度～2027年度の収支見通しについて
2. 令和5年度保険料率に関する論点について
3. 令和5年度和歌山支部保険者機能強化予算案について

議題1. 2023年度～2027年度の収支見通しについて

議題2. 令和5年度保険料率に関する論点について

主な意見・質問

【学識経験者A】

学問的に考えると医療保険は短期保険で年金保険は長期保険であるため、本来であれば医療保険の平均保険料率は単年度収支に合わせ変更させていくのは本筋ではある。しかし、今後の後期高齢者の増加や被保険者数の減少、コロナ禍水準での医療費がどのように変わっていくか、高額薬剤などのイレギュラーな問題もあることを考えると、10%維持は違和感があるがやむを得ないと考える。10%維持に関しては現状の準備金の積み上がり方から加入者に対し納得感のある説明が必要ではないかと考える。

保険料率の変更時期については4月納付分からの変更で支障はない。

<事務局回答>

加入者の皆様に対しては健診費用の自己負担額を下げることで還元していくことが議論されています。具体的な内容は次回の評議会にて評議員の皆様にお伝えします。

【学識経験者B】

保険料率の変更時期は事業所としても定着しているため4月納付分からで問題ない。

保険料率に関しては今後赤字要因が多々ある中、保険料率が毎年上下するよりは、なるべく先まで同じ保険料率にすることが好ましい。

【学識経験者 C】

準備金が毎年積み上がっていることを考えると保険料率は少しでも下げていくことが望ましいが、様々な今後の要因を考慮すると保険料率 10%を維持していくことはやむを得ない。しかし、準備金の活かし方は加入者の納得いく形で考えてもらいたい。保険料の変更時期については今まで通りで問題はない。

【事業主代表 A】

平均保険料率については個人的には評議員として意見したところで見直しができるのか疑問に思っている。支部ではなく全国の平均保険料率の議論をしても具体的な意見はなかなか出しにくい。保険料の変更時期についてもほぼ決まっており意見のしようがない。

【事業主代表 B】

健康保険組合の7割が赤字とのことであるが、解散して協会けんぽに流れてくるとどのような影響が出てくるのか。保険料率に影響はあるのか。

来年度の料率について和歌山は想定より医療費が低く下がる予想とのことであり喜ばしいことである。

<事務局回答>

健康保険組合の加入者の標準報酬により協会けんぽに編入したのちの影響が異なると考えられます。

【被保険者代表 A】

保険料率の変更時期は現場の混乱を考えると現状通りで問題はない。健康保険組合の編入に関しては加入者の標準報酬に関しどのような試算をもとに推定しているのか疑問に思っている。保険料率に関しては下げられる状況にもかかわらず下げていない年度が続いており準備金は毎年積み上がっている。この準備金を活用し、今後数年後に赤字になる見込みであれば赤字を先延ばしできるような施策に転換していく必要がある。国庫補助についてもいきなり来年から現状の 16.4%を 20%にするのは国の財政的にも難しいと思われるが 5 年 10 年後を見越し、協会全体で 20%に引き上げる行動を今からしていかないと 10%維持が難しくなった時に現場の負担ばかりが増えるため今のうちより対応してほしい。そういった中長期的なビジョンも考えてほしい。

【被保険者代表 B】

被保険者としては準備金が積み上がっている中、保険料率が下がらず続いている状況は納得がいかないところである。しかし、今後の試算を見ると将来的に 10%以上になることが分かっている状況の中では 10%維持は仕方ないのではないか。

保険料率の変更時期については 4 月納付分より変更されるということが根付いているため問題ない。

【被保険者代表C】

平均保険料率は 10%維持で推移することがよいと考える。事業主や加入者からは 10%を超えることはなかなか受け入れられない状況であるため、10%以上になるタイミングをなるべく先にした方がよいと考える

保険料率の変更時期については4月納付分からの変更でよい。

【学識経験者A】

昨年の収支見通しは今回の収支見通しとはどのくらい違うのか。また、それ以前の収支見通しに対して各年度毎の乖離原因の検証をしてほしい。

＜事務局回答＞

昨年度と今年度の収支見通しの差は、一部金額に差はあるものの準備金が枯渇する年度は基本的に一致しています。

議題3. 令和5年度和歌山支部保険者機能強化予算案について

事務局より資料に沿って説明。

主な意見・質問

【学識経験者B】

お薬手帳カバーというのは具体的にどのようなものか。

＜事務局回答＞

ナイロン製のカバーに保険証や診察券とお薬手帳を一括して管理できるもので、カバーの表面にジェネリック医薬品希望を表示し薬局などの窓口で意思表示していただきジェネリック使用促進を図るものです。

【学識経験者B】

今、マイナンバーカードと保険証の一体化が報道されているがそれと逆行しないか。

＜事務局回答＞

和歌山の使用割合は全国的にみると下位の状況です。また、国より来年度末までに80%の目標を求められており、使用促進の取り組みは早期に実施していく必要があると考えており、健康保険証の廃止も数年先との報道がされていますので実施したいと考えています。

【事業主代表A】

インセンティブを上げるために広報を行うのか。広報内容の配分はどのように考えているのか。

<事務局回答>

広報経費は協会全体の広報を行う経費です。和歌山支部の場合はジェネリック医薬品の使用割合が非常に低いことから特に力を入れたいため、広報の配分としてはジェネリック医薬品関連が多くなっています。

【被保険者代表B】

ジェネリック使用促進に関し医療提供側へのアプローチはどのようになっているのか。

<事務局回答>

医療提供側には県医師会や県薬剤師会を通じアプローチしているが、最終的には各診療所内の医師の判断になるため各医師の理解が必要です。使用率の悪い医療機関に対し訪問説明等しているが頑なにジェネリック医薬品に対し拒否感を示す医師もいるため苦慮しているところです。

【学識経験者B】

県広報誌の県民の友は県内全戸配布で広報として効果的なため、ぜひ継続し取り組んでほしい。

【学識経験者A】

付加価値を付与した女性向け集団健診の実施（ホテル健診）だが他支部の先行事例をよく研究し実施してほしい。また、ホテルで健診を実施するだけでは健診を受けようという気にはならない。ホテルの場合、駐車場がないことが多いため受診しにくいことが考えられるため、ドリンク券やランチの割引券を付けるなどホテル以外の付加価値をよく検討してほしい。

<事務局回答>

他支部で実施している都市部での事例と和歌山のロケーションの違いがあるため特典面も含めよく検討し実施したい。

<特記事項>

- ・次回は令和5年1月に開催することを報告。